柿本朝臣人麻呂、泊瀬部皇女と忍坂部皇子と
に献る歌一首　并せて短歌

一九四番

飛ぶ鳥の　明日香の川の　上つ瀬に　生ふる玉藻
は　下つ瀬に　流れ触らばふ　玉藻なす　か寄り
かく寄り　なびかひし　夫の命の　たたなづく
柔膚すらを　剣大刀　身に副へ寝ねば　ぬばた
まの　夜床も荒るらむ　そこ故に　慰めかねて
けだしくも　逢ふやと思ひて　玉垂の　越智の大
野の　朝露に　玉裳はひづち　夕霧に　衣は濡
れて　草枕　旅寝かもする　逢はぬ君故

反歌一首

一九五番

しきたへの　袖かへし君　玉垂の　越智野過ぎ行
く　またも逢はめやも